

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

整理番号

事業名

相談や地域のたすけあい機能を持つコミュニティカフェ事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	一日の来訪者目標15名のところ、前半は立地条件の不利もあり半数にも達せず、寂しい日が続いたが、後半はイベントやサークル活動に力を入れたことや、周知が進んだことで徐々に増加して来た。まだ目標達成には時間がかかるが、可能性は見えてきている。相談件数は月10件の目標に達した月もあり、来訪者との話が深まることで今後増加すると思われる。たすけあいの件数は月10件の目標に遠く及ばなかった。地域の人々が知り合い、助け合う関係になるには時間がかかることを実感しているが、方向性を示すことで今後増やせると感じている。	3
2	市民性	静かな住宅地に賑わいの場を作ったことで、近隣の反応に気を遣ったが、隣接する方々から温かい言葉を掛けていただくことが多かった。「このような場がとても必要な時代です」「作ってくれてありがとう」「駐車場が空いているので、必要なら使ってください」「(コンサートの音が)少し聞こえますが大丈夫、気にしないで」など受け入れられていることを感じ、その信頼に応えていきたい。顔の見える関係が増えて、ワーカーズに明るく挨拶の声をかけてくださることも多くなった。近隣の方のイベントへの参加も増えているし、一人暮らしの方が定期的に食事に来られることも嬉しい。	4
3	波及効果	コミュニティカフェの先行事例として、多くの団体や個人の見学を受け入れている。 ワーカーズを常に複数配置し、一人で来られても、話相手や相談ができることと、ちょっとした困りごとをワーカーズや来訪者同士で助け合うという機能は、他団体でもモデルとして有効だと思う。	4
4	継続性	平成25年度は、開所時間を10時から17時までで延長してほぼ同様の内容で継続する予定であり、継続計画を策定している。 体制面では、ワーカーズ7名全員が今後も参加するが、時間数を減らす人もあり、ワーカーズの追加募集を行っている。問題は資金調達であり、助成金に応募してはいるものの、少額であり、困難は避けられない。各種料金の値上げや経営努力により、なんとか継続していきたい。	4
5	マルチステークホルダー・プロセス	事業立ち上げの初年度に、経験豊富な先輩NPOからの指導、助言や心理的な支えは心強かった。特に本部組織である「NPO法人アピリティクラブたすけあい」は「まちの相談パートナー養成講座」を開催し、大変有効な研修を受けることができた。他の団体は事業遂行上のこちらの要請を快く受けて、協力・助けられたが、各自の事業が多忙であり積極的参加はなかった。行政も市報に出したり周知に努力したが、保健所関係案件等の相談などにおいては、同一自治体内に関係機関がなく、専門的な回答は得られなかった。	3

合計点

18

ランク

A